

(資料 6)

肥後銀行の環境への取組み

ー持続可能な地域社会の実現を目指してー



肥後銀行経営企画部
サステナビリティ推進室
大野 隆

肥後銀行

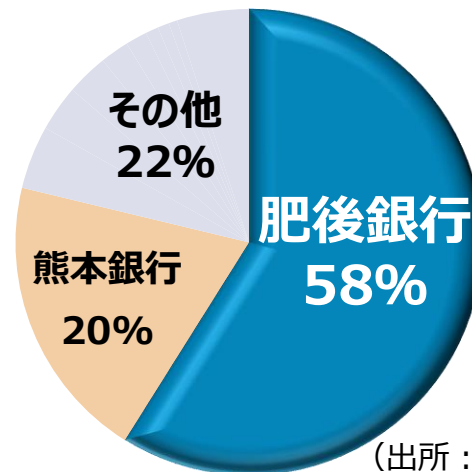


九州フィナンシャルグループ

創 立	大正14年7月25日
資 本 金	181億円
預 金	5兆5,180億円
貸 出 金	4兆4,121億円
拠 点 数	124 (本支店118、出張所5、海外駐在員事務所1)
従業員数	2,170人
自己資本比率	10.00% (国内基準)
外部格付	A + (R & I)

(2023年3月現在)

2022年度メインバンク割合【熊本県】



(出所：帝国データバンク資料)



(本店)



うるおいある未来のために。

当行のイニシャル「H」と「∞」をモチーフとしたデザインは、永遠に続くうるおいのサイクル“潤環”※を表現しています。また、中央のスクエアでつながる造形は、当行が環境やお客さまといったさまざまな要素や事象をつなぐ存在でありたいとの思いを込めています。

※潤環：「うるおい（潤い）」と「循環」を組み合わせたオリジナル造語

- 1. 肥後銀行のSDGs・環境への取り組み**
- 2. 地域と連携した取り組み**
- 3. お客様向けの商品・サービス**
- 4. 最後に**

1. 肥後銀行のSDGs・環境への取り組み

2. 地域と連携した取り組み

3. お客様向けの商品・サービス

4. 最後に

【九州FG】グループのSDGs推進体制について

2018年に専門組織を設置。持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化。

SDGs/
ESG



2018年10月専門部署設置



Kyushu FG

九州フィナンシャルグループ

サステナビリティ統括室



HigoBank

肥後銀行

サステナビリティ推進室



Kagoshima Bank

鹿児島銀行

サステナビリティ推進室

10名態勢

グループの目指す姿



好循環サイクルを実現



地域・お客様・グループの持続可能性向上

(参考) サステナビリティ推進の取り組み

肥後銀行

KFG



世界

国内

イニシアティブ等	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	~2030年
 SDGs	2018年10月 専門部署設置	2019年7月 投融资指針	2020年7月 ESG投融资目標	2021年12月 サステナブル投融资方針	2022年1月 人権方針		
	2019年2月 サステナビリティ宣言 全体構想	2020年3月 グリーン購入方針	2021年4月 サステナビリティ推進 委員会	2021年6月 ESG投融资目標、 マテリアリティ制定		2023年下期 マテリアリティ見直し (予定)	
 TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)		2019年6月 KFG賛同 (地銀2例目)	2020年7月 CO2排出量算定 (スコープ3開示)	2021年7月 シナリオ分析結果、 CO2排出量目標	2022年6月 PCAF加盟 (投融资先排出 量算定)		
			2021年1月 環境方針制定	2021年12月 カーボンニュートラル宣言 (2050年)		2023年3月 カーボンニュートラル 宣言 (2030年)	
 PRB (国連責任銀行原則)			2020年9月 KFG署名				
 PRI (国連責任投資原則)				2021年9月 企業年金基金署名 (銀行基金初)			
 TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース)				2022年4月 JBIB加入	2022年8月 TNFDフォーラム加入	2023年下期 KFG賛同 (予定)	
 GXリーグ						2023年4月 KFG加入	
 30by30						2023年5月 加入	
 インパクト志向金融宣言						2023年8月 署名	

環境
関連



ESG投融资の推進
(2019年より投融资目標公表)

地銀初公表（当時）



KFGカーボンニュートラル宣言（2023年3月28日公表）

温室効果ガス排出量の内、**Scope 1・2**について、**2030年度までにカーボンニュートラル達成**
※Scope1：直接排出量（ガソリン、重油、ガス）、Scope2：間接排出量（電気）

【国際的なイニシアチブへの対応】



TCFD賛同（2019年6月）
〈気候変動に関する財務情報開示〉

地銀初



PCAF 加盟（2022年6月）
〈投融资先のGHG排出量の測定と開示〉



PRB署名（2020年9月）
〈国連責任銀行原則〉

地銀初



TNFDフォーラム参画（2022年8月）
〈自然関連財務情報開示〉

累計23,000人の行員がボランティア参加



阿蘇「大観の森」での植樹

水源涵養林の育成のため、累積59ヘクタール、14万本以上の植樹を実施。（2006年～）



「大観の森」での植樹



6.1



13.3



15.1.2



「阿蘇水掛の棚田」での稲作

耕作放棄地を利用し棚田を再生し、農業による水田湛水事業を行っています。（2011年～）



「水掛の棚田」

地下水保全活動のK P I : 活動のインパクトを示すS R O I（社会的収益率）を用いて評価

当行の地下水保全活動



インパクトを示すK P Iを追加

社会的投資収益率（SROI : Social Return on Investment）

1 ≥ であればポジティブなインパクト

$$SROI = \frac{\text{アウトカムの貨幣価値換算価額の合計}}{\text{インプットの貨幣価値換算価額の合計}} \geq 1$$

算定結果

地下水保全活動の
SROI

$$= \frac{\begin{array}{l} \cdot \text{涵養された地下水} \\ \cdot \text{加工された木材} \\ \cdot \text{収穫されたお米} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} \text{貨幣価値} \\ \text{に換算} \end{array} \right.}{\begin{array}{l} \cdot \text{保全活動に係る人件費} \\ \cdot \text{植樹に必要な苗の費用} \\ \cdot \text{農耕器具費用} \cdots \text{等} \end{array}}$$

7.7（5年平均）

当行HP
に開示

家庭で使用した油を回収し、バイオディーゼル燃料に再生



2022年度：
県内全店舗に回収スポット設置



【回収スポット】



STEP1



お客様・行員が
家庭でた廃油を持参

STEP2



営業店で回収



STEP3



バイオディーゼル燃料に！



バイオディーゼル燃料で
走る当行の移動店舗車
「ハモニカー」

世界

2022年8月
賛同

Task Force for **N**ature-Related **F**inancial **D**isclosure
(自然関連財務情報開示タスクフォース)



国内

J B I B
(民間団体)



2022年4月

30 b y 30
アライアンス
(環境省)



2023年5月

民間主導での生物多様性保全の貢献を目指すイニシアティブ。三井住友海上が代表理事を務める。

30by30目標達成に向け、保護地域の拡充とともに、保全されてきたエリアをOECDとして認定する取り組みを進めるため、環境省が中心となって発足

熊本



阿蘇：大観の森での植樹・水掛けの棚田での稲作



人吉：緑の流域治水プロジェクト



熊本市：生物多様性推進会議

1. 肥後銀行のSDGs・環境への取り組み

2. 地域と連携した取り組み

3. お客様向けの商品・サービス

4. 最後に

熊本県内のSDGs未来都市、脱炭素先行地域

【SDGs未来都市とは】

地方創生SDGsの達成に向け、優れたSDGsの取組を提案する自治体を**内閣府が選定**し、その中で特に優れた先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として選定して支援、成功事例の普及を促進。

熊本県内のSDGs未来都市（選定年）

2018年	小国町
2019年	熊本市
2020年	水俣市
2021年	菊池市、山都町
2022年	八代市、上天草市、南阿蘇村
2023年	—

【脱炭素先行地域とは】

※**青字**：当行SDGs連携協定締結先

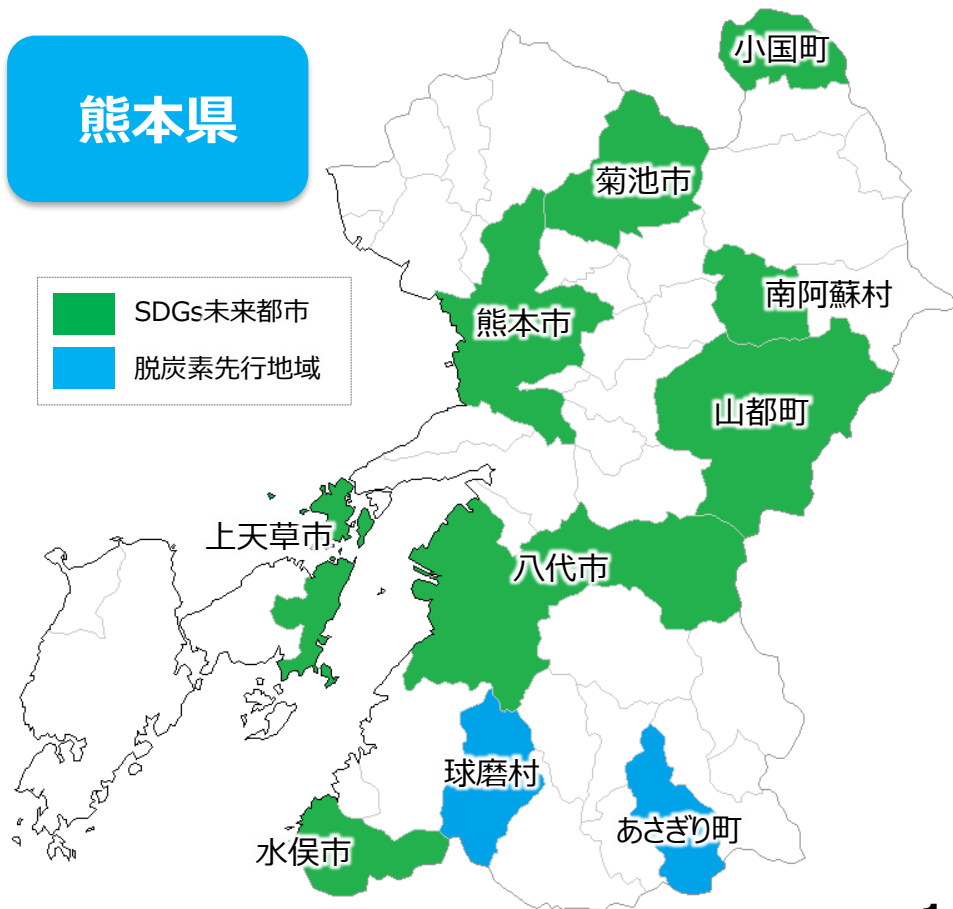
2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めたその他の温室効果ガス排出削減についても、日本全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域を**環境省が選定**。

熊本県内の脱炭素先行地域

第1回	球磨村
第3回	あさぎり町
第4回	熊本県

熊本県

 SDGs未来都市
 脱炭素先行地域



県内自治体とのSDGsに関する連携

熊本市 (2019年SDGs未来都市)

2020年1月連携協定締結



小国町 (2018年SDGs未来都市)

2020年5月連携協定締結



菊池市 (2021年SDGs未来都市)

2023年3月連携協定締結



八代市 (2018年SDGs未来都市)

2022年度SDGs業務受託



上天草市 (2019年SDGs未来都市)

2022年度SDGs業務受託



SDGs未来都市だけでなく、
様々な県内自治体との
連携を通じ、SDGsの
普及啓発の取組を支援！

SDGs未来都市

SDGs推進に関する連携協定

【 熊本市 】
2020年1月

【 小国町 】
2020年5月

【 菊池市 】
2023年3月



熊本県内のSDGs未来都市（選定年）

2018年	小国町
2019年	熊本市
2020年	水俣市
2021年	菊池市、山都町
2022年	八代市、上天草市、南阿蘇村

17 パートナシップで
目標を達成しよう



17.17

熊本県SDGs登録制度の創設

2021年4月制度開始

熊本県・熊本市、金融機関等と連携し、
熊本県SDGs登録制度を創設。



©2010熊本県くまモン



2030年目標：
登録企業1,000社



第1期（2021年 4月）：441社登録

第2期（2021年10月）：570社登録

第3期（2022年 4月）：606社登録

第4期（2022年10月）：296社登録

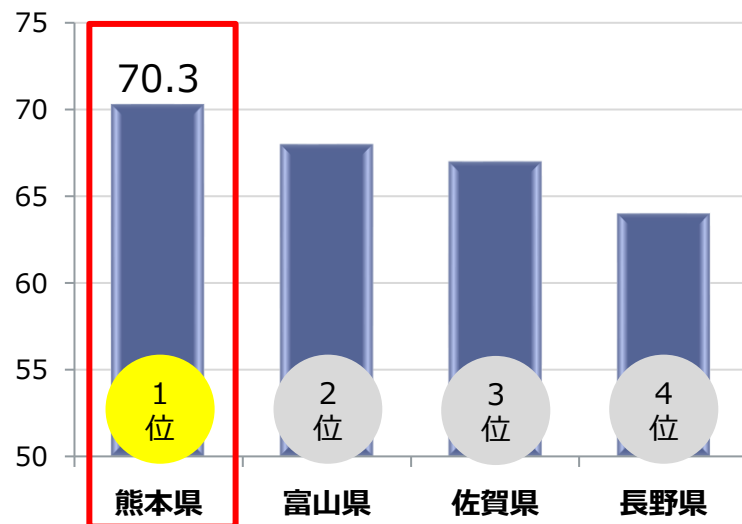
第5期（2023年 6月）：229社登録

第6期（2023年10月）：登録審査中

初年度で
1,000社突破！

累計
2,142社

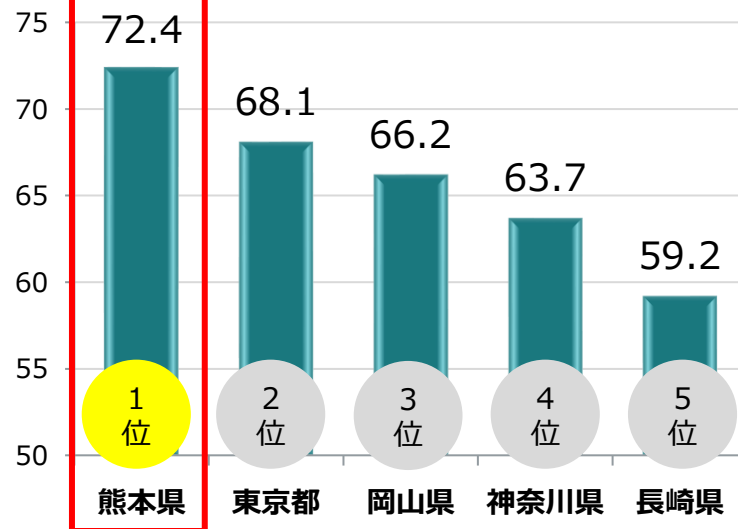
「SDGsに積極的な県」 全国ランキング（2023年）



（帝国データバンク「SDGsに関する企業の意識調査」）

熊本県 全国1位
（2021年 1位⇒2022年 3位）

ビジネスパーソンに聞いた 総合認知度（2022年）



（日経BP社調査、N=ビジネスパーソン23,239人）

「SDGs認知度」と「施策認知度」を
合わせた「SDGs総合認知度ランキング」
熊本県72.4 全国1位

今後

SDGsの認知度は高まっており、
今後も取り組みが加速する事が予想される。

県内自治体、企業等と連携して、地域の持続可能性向上に貢献

当行グループ



協働による価値共創

地方経済総合研究所

九州電力

熊本日日新聞社

三井住友海上火災保険

県内企業 etc

＜連携施策＞

金融

- ✓ 脱炭素・再エネ導入

非金融

- ✓ SDGs普及啓発支援
- ✓ Jクレジット導入支援
- ✓ 環境保全活動（植樹・田植え等）
- ✓ 防災・減災
- ✓ 自治体・企業等との連携施策
（フードドライブ、衣料品リユースPJ等）

【県内45市町村】

SDGs未来都市
（内閣府選定先）

脱炭素先行地域
（採択先・申請予定先）

2050年CO₂排出
実質ゼロ表明自治体

【企業】

県内企業
当行取引先

地域価値の創造に向け、金融・非金融サービスを通じたお客様の支援を継続・強化

1. 肥後銀行のSDGs・環境への取り組み

2. 地域と連携した取り組み

3. お客様向けの商品・サービス

4. 最後に

2020年4月～

SDGsコンサルティング

(コンサルティングの様子)



2020年4月、SDGsコンサルティングを開始。コンサル業務を通じ、企業のCO₂排出量算定・削減支援

2021年9月～

カーボンニュートラルコンサルティング

企業

肥後銀行

連携企業

Scope 1 :

自社の直接排出（ガソリン、ガス、重油等 **化石燃料**）

Scope 2 :

他社から供給された**電気・熱・蒸気**の使用に伴う間接排出

Scope 3 :

商品・サービスの購入や**サプライチェーン**全体の間接排出

【コンサルティング内容】

- ・サプライチェーンCO₂排出量算定支援
- ・目標設定、削減活動の具体的支援



九州フィナンシャルグループ

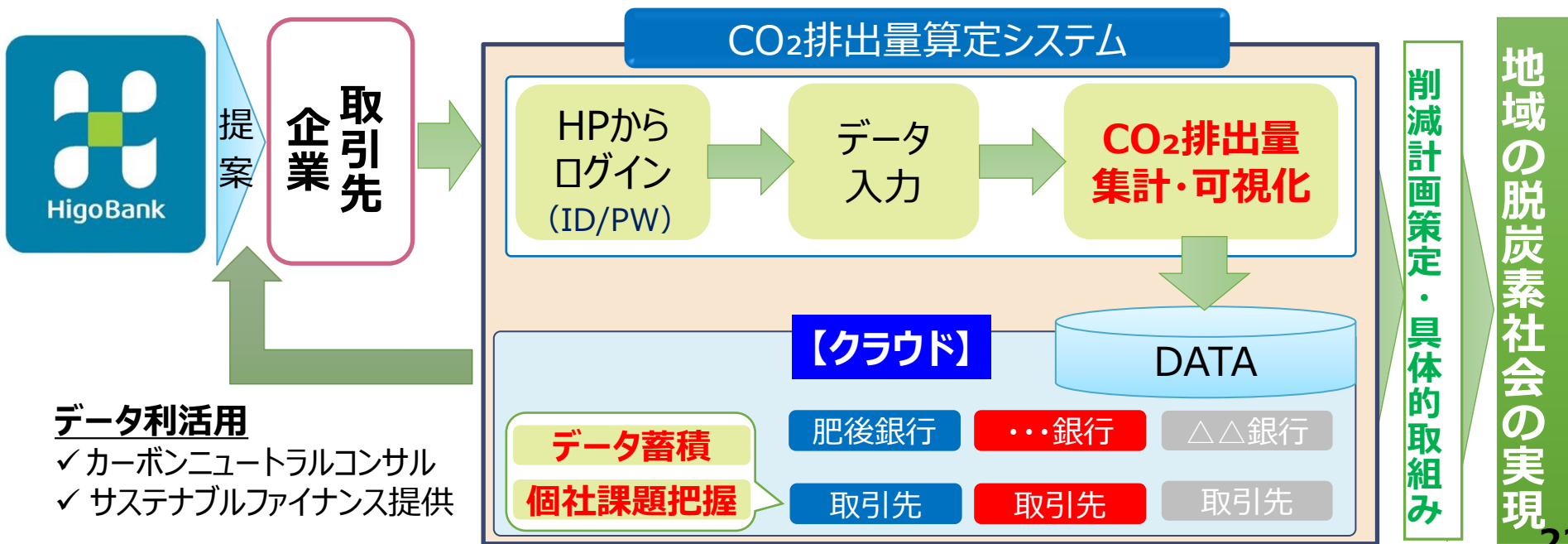
2030年までに累計1兆円のESG投融資を通じ、地域のSDGsを支援

NEW	トランジションファイナンス	脱炭素社会の実現に向けて長期的な戦略に則り、着実な温室効果ガス削減の取組を行う企業へ融資
	サステナビリティ・リンク・ローン	企業が社会・環境に関する野心的な目標設定、達成状況に応じて金利変動
	ポジティブ・インパクト・ファイナンス	企業が経済・社会・環境にもたらすインパクトを評価機関が分析・評価。設定目標を継続してモニタリング
NEW	グリーンローン・ソーシャルローン	環境改善効果・社会課題解決を生み出すプロジェクトに取り組む際に、効果を定量的に評価。（資金用途限定）
	ひぎんSDGsサポートローン	熊本県SDGs登録企業に対する金利優遇
	ひぎん環境サポートローン	環境配慮、脱炭素等に資する事業に対して金利優遇
	ひぎんSDGs私募債	SDGsに資する寄付付きの私募債

独自開発のCO₂排出量算定システム

グループのカーボンニュートラル宣言：スコープ1・2について**2030年度までに達成**

地域のカーボンニュートラルを牽引する地域金融機関としての役割として、独自の「CO₂排出量算定システム」を開発・提供



システム名

Zero-Carbon-System
(通称：炭削くん)



開発目的

CO₂排出量の把握、見える可を実現するシステムをお客様にご活用頂くことでお客様、そして地域全体のカーボンニュートラル実現を目指すため

特徴

- ・マルチデバイス対応（PC、スマートフォン等）
- ・他のシステムと比較して低価格で利用可能

**2024年1月より
サービス提供予定**

主な機能

- 電気、エネルギー等の各種使用量（請求書等）データをシステムに入力
- ① 企業活動全体のCO₂排出量算定（Scope1,2,3）および可視化
 - ② 排出量削減目標の設定及び進捗管理
 - ③ 算定結果のレポート出力

**独自開発システムで
は地方銀行初！**

地域・お客さまとともにカーボンニュートラルを実現

2024年1月～



すべてのお客さま

2023年9月～



当行コンサルティング先、
金融機関等

2023年7月下旬～



肥後銀行グループ



Zero-Carbon-System

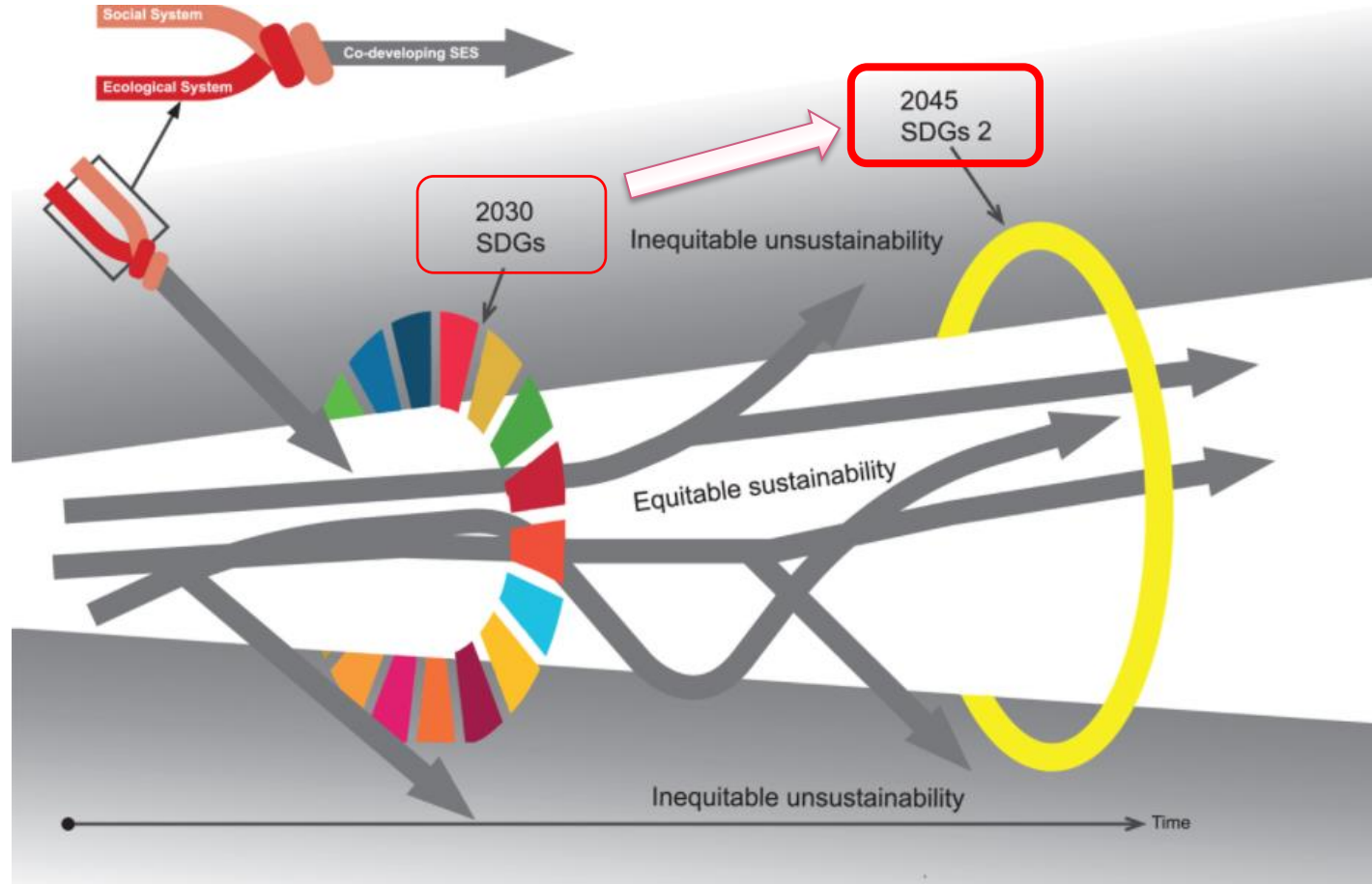
たん さ く

炭削くん

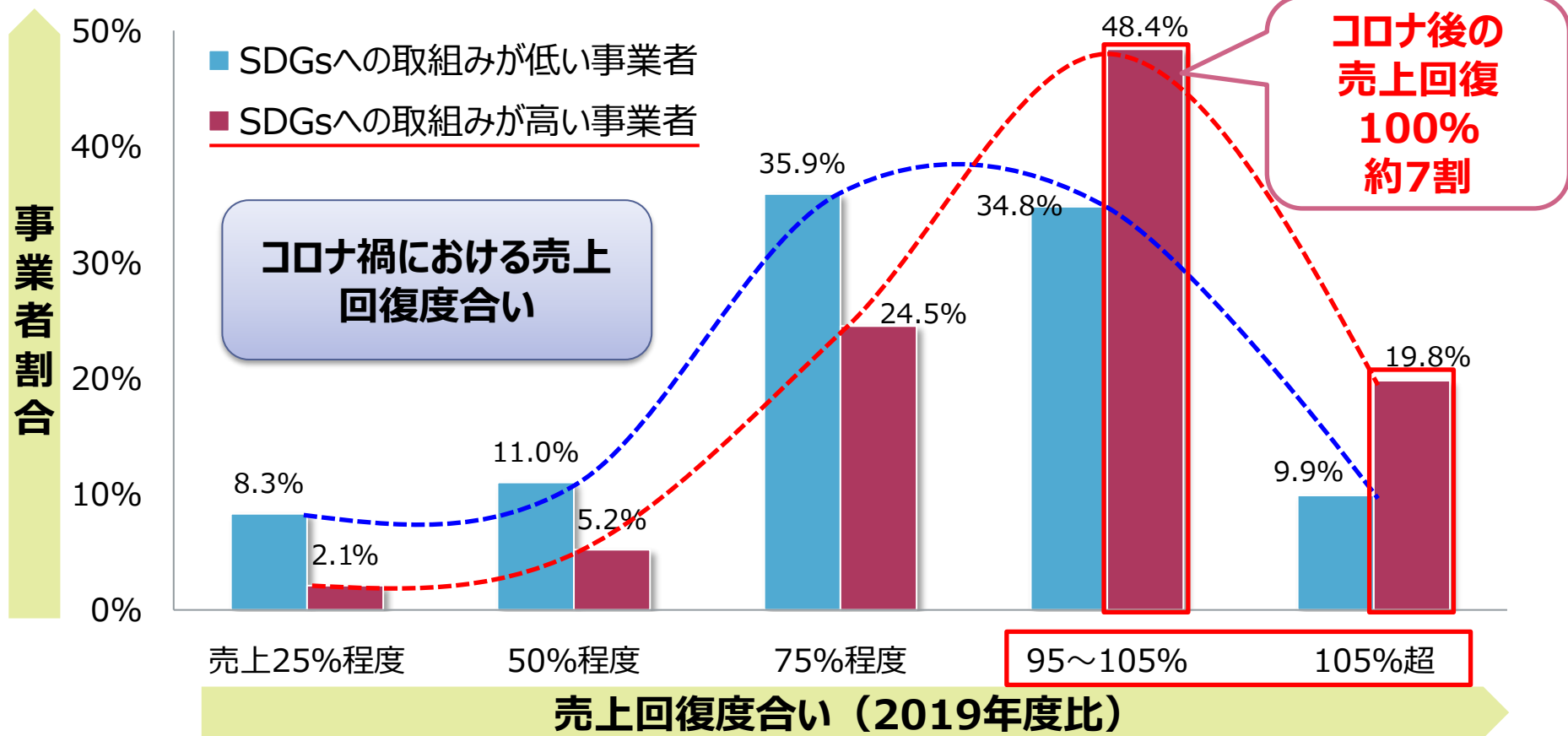
- ✓ CO₂排出量の可視化
- ✓ 削減目標設定
- ✓ 目標達成に向けた進捗管理

1. 肥後銀行のSDGs・環境への取り組み
2. 地域と連携した取り組み
3. お客様向けの商品・サービス
- 4. 最後に**

SDGsはその先の世界を可能にするための道しるべ



SDGsに取り組む企業は非常時の業績回復も早い！ HigoBank



ご清聴ありがとうございました

うるおいある未来のために。

